

2015年10月20日
株式会社日本政策金融公庫
総合研究所

全国中小企業動向調査結果

(2015年7-9月期実績、10-12月期以降見通し)

小企業の景況

(原則従業員20人未満)

小企業の景況は、持ち直しの動きが緩やかになっている

(前回)持ち直しの動きがみられる

- 業況判断DIは、前期からほぼ横ばいの▲26.8となった。
来期はマイナス幅が拡大する見通し。 ← 5ページ
- 売上DIは、前期から横ばいの▲20.5となった。
来期はマイナス幅が縮小する見通し。 ← 10ページ
- 採算DIは、マイナス幅が拡大し、▲14.8となった。
来期はマイナス幅が縮小する見通し。 ← 11ページ

■ 主要DI(カッコ内は前回調査からの変動幅)

業況判断DI	売上DI	採算DI	資金繰りDI	借入DI
▲26.8(-0.3)	▲20.5(±0)	▲14.8(-1.0)	▲20.6(-2.6)	▲6.6(+0.3)

中小企業の景況

(原則従業員20人以上)

中小企業の景況は、緩やかに回復している

(前回)緩やかに回復している

- 業況判断DIは、2期連続で上昇し、4.7となった。
来期は低下、来々期は上昇する見通し。 ← 17ページ
- 売上DIは、2期連続で上昇し、7.8となった。
来期以降は上昇する見通し。 ← 20ページ
- 純益率DIは、2期連続で上昇し、▲1.0となった。
来期は低下、来々期は上昇する見通し。 ← 21ページ

業況判断DI	売上DI	純益率DI	資金繰りDI	長期借入難易DI
4.7(+1.9)	7.8(+4.2)	▲1.0(+4.7)	7.4(+1.0)	14.4(+0.8)

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 総合研究所 小企業研究第二グループ Tel:03-3270-1691(担当:桑本、清野)
中小企業研究第一グループ Tel:03-3270-1703(担当:金子、神谷)
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

目次

調査結果の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

【小企業編】

概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
調査の実施要領・・・・・・・・・・・・ 4
業況判断・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
売上・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
採算・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
資金繰り、借入・・・・・・・・・・・・ 12
経営上の問題点・・・・・・・・・・・・ 13
設備投資、価格動向・・・・・・・・・・ 14

【中小企業編】

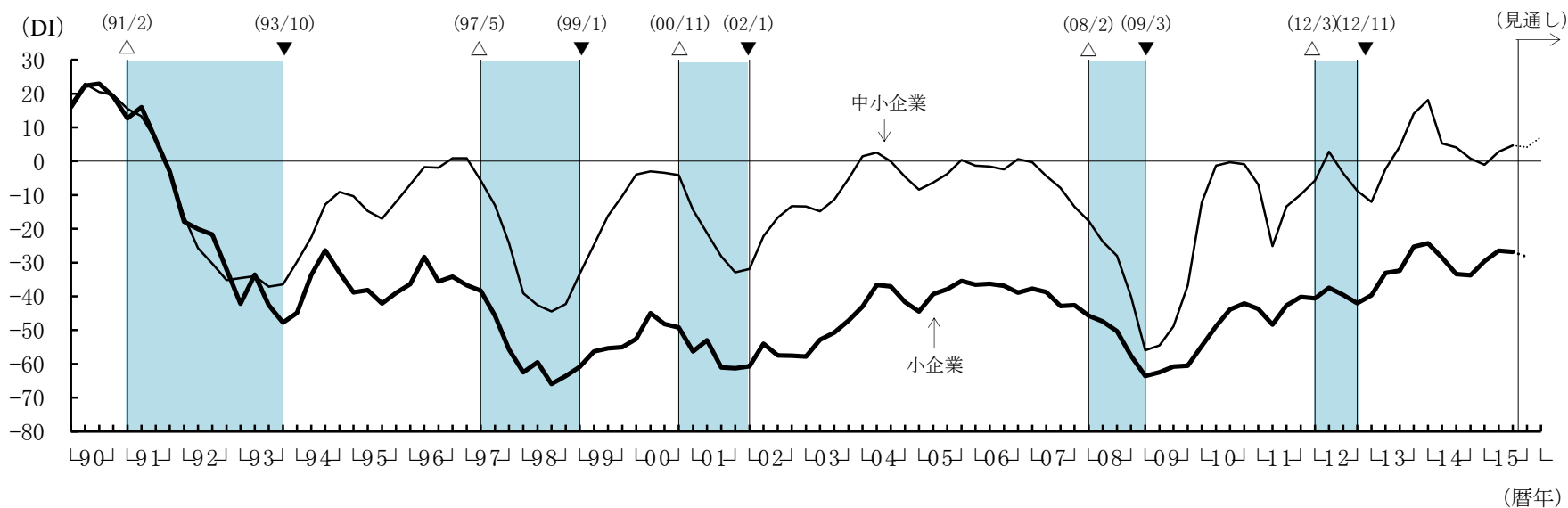
概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
調査の実施要領・・・・・・・・・・・・ 16
業況判断・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
売上・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
利益・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
価格、金融関連・・・・・・・・・・・・ 22
雇用、設備・・・・・・・・・・・・・・ 23
経営上の問題点・・・・・・・・・・・・ 24

調査結果の概要

1 業況判断DIの推移

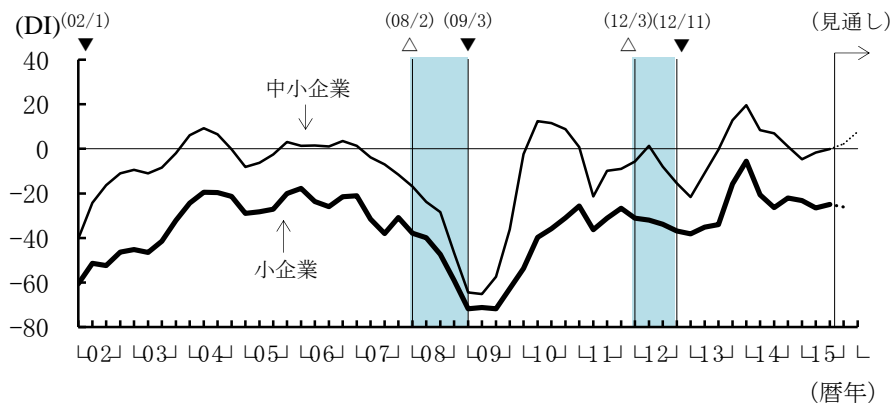
①全業種計

	13.7-9	13.10-12	14.1-3	14.4-6	14.7-9	14.10-12	15.1-3	15.4-6	15.7-9	15.10-12	16.1-3
中小企業	4.3	14.1	18.1	5.3	4.1	0.8	▲1.0	2.8	4.7	見通し	見通し
小企業	▲32.4	▲25.3	▲24.3	▲28.5	▲33.4	▲33.8	▲29.6	▲26.5	▲26.8	▲28.3	-



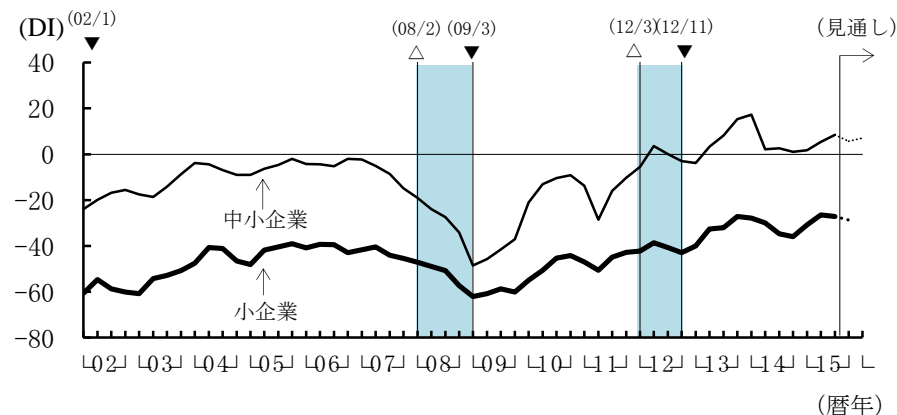
②製造業

	15.1-3	15.4-6	15.7-9	15.10-12	16.1-3
中小企業	▲4.6	▲1.6	▲0.1	2.2	7.6
小企業	▲23.2	▲26.5	▲25.0	▲26.1	-



③非製造業

	15.1-3	15.4-6	15.7-9	15.10-12	16.1-3
中小企業	1.8	5.4	8.5	5.6	7.0
小企業	▲30.8	▲26.5	▲27.2	▲28.7	-

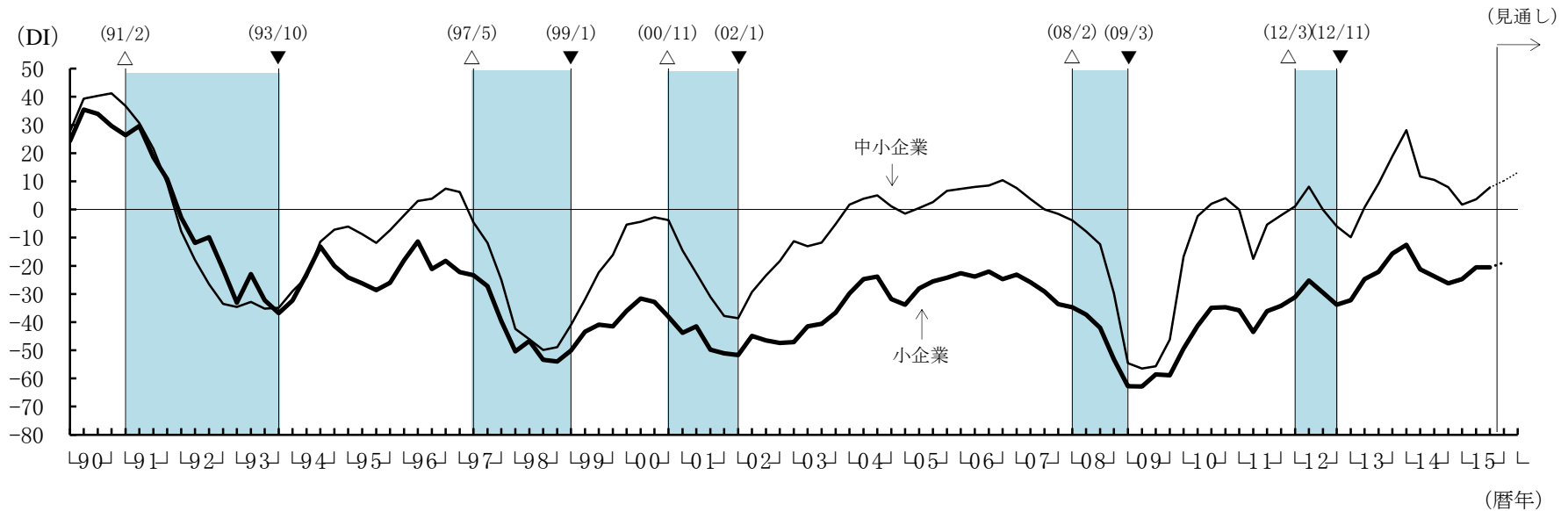


- (注) 1 小企業のDIは、調査対象企業の業況が「良い」と回答した企業割合から「悪い」と回答した企業割合を差し引いた値。
 2 中小企業のDIは、調査対象企業の業況が前年同期比で「好転」と回答した企業割合から「悪化」と回答した企業割合を差し引いた値(季節調整済)。
 3 △は景気の山、▼は景気の谷、シャドー部分は景気後退期を示す(以下同じ)。

2 売上DIの推移

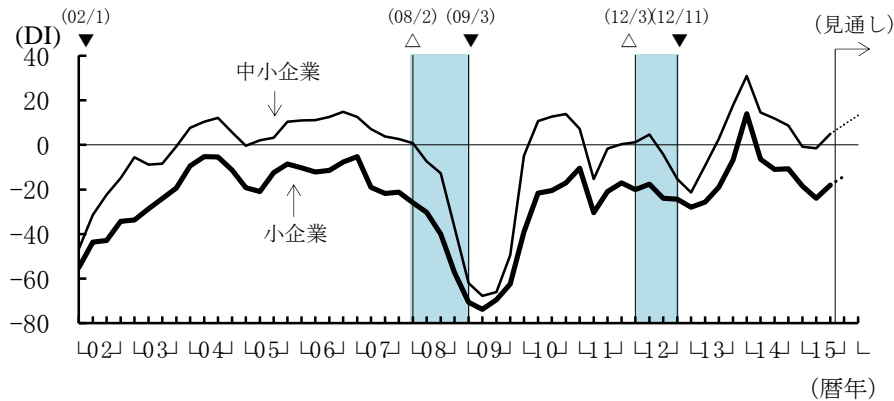
①全業種計

	13.7-9	13.10-12	14.1-3	14.4-6	14.7-9	14.10-12	15.1-3	15.4-6	15.7-9	15.10-12	16.1-3
中小企業	9.2	18.9	28.2	11.7	10.5	7.9	1.7	3.6	7.8	見通し	見通し
小企業	▲22.1	▲15.6	▲12.5	▲21.3	▲23.8	▲26.2	▲24.7	▲20.5	▲20.5	▲18.8	-



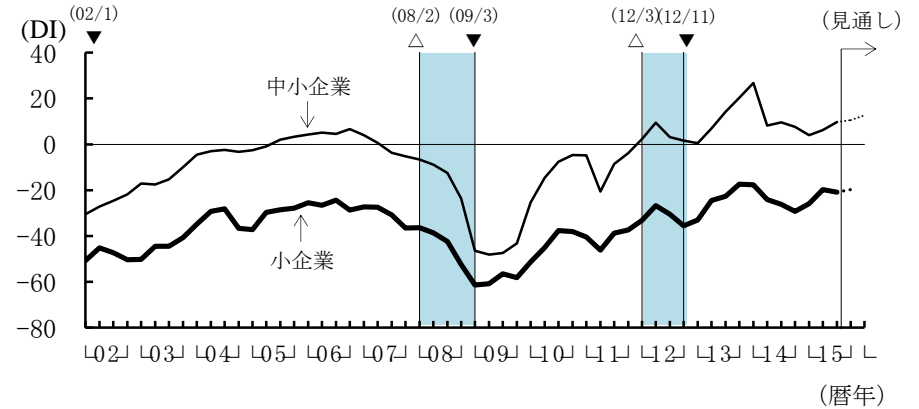
②製造業

	15.1-3	15.4-6	15.7-9	15.10-12	16.1-3
中小企業	▲0.8	▲1.5	5.0	9.1	13.3
小企業	▲18.5	▲24.0	▲18.1	▲14.0	-



③非製造業

	15.1-3	15.4-6	15.7-9	15.10-12	16.1-3
中小企業	4.0	6.2	9.7	10.5	12.7
小企業	▲25.9	▲19.8	▲20.9	▲19.7	-



- (注) 1 小企業のDIは、前年同期比で「増加」と回答した企業割合から「減少」と回答した企業割合を差し引いた値。
 2 中小企業のDIは、前年同期比で「増加」と回答した企業割合から「減少」と回答した企業割合を差し引いた値 (季節調整済)。

小 企 業 編

(2015年7-9月期実績、10-12月期見通し)

小企業の景況は、持ち直しの動きが緩やかになっている

[概況]

- ・業況判断DIは、前回調査（2015年4-6月期）からほぼ横ばいの▲26.8となった。来期は、マイナス幅が拡大する見通しとなっている。
- ・業種別にみると、製造業はマイナス幅が縮小し、▲25.0となった。非製造業はマイナス幅が拡大し、▲27.2となった。来期は、製造業、非製造業ともに、マイナス幅が拡大する見通しとなっている。
- ・売上DIは、前期から横ばいとなった。来期は、マイナス幅が縮小する見通しとなっている。
- ・採算DIは、マイナス幅が拡大した。来期は、マイナス幅が縮小する見通しとなっている。

[調査の実施要領]

調 査 時 点	2015年9月中旬
調 査 対 象	当公庫取引先 10,000 企業
有 効 回 答 数	7,021 企業 [回答率 70.2 %]

< 業 種 構 成 >

		調 査 対 象	有 効 回 答 数	
製 造 業	(従業員20人未満)	1,500 企業	1,129 企業	(構 成 比 16.1 %)
卸 売 業	(同 10人未満)	800 企業	597 企業	(同 8.5 %)
小 売 業	(同 10人未満)	2,450 企業	1,690 企業	(同 24.1 %)
飲食店・宿泊業	(同 10人未満)	1,800 企業	1,163 企業	(同 16.6 %)
サ ー ビ ス 業	(同 20人未満)	2,000 企業	1,417 企業	(同 20.2 %)
情 報 通 信 業	(同 20人未満)	160 企業	104 企業	(同 1.5 %)
建 設 業	(同 20人未満)	1,100 企業	786 企業	(同 11.2 %)
運 輸 業	(同 20人未満)	190 企業	135 企業	(同 1.9 %)

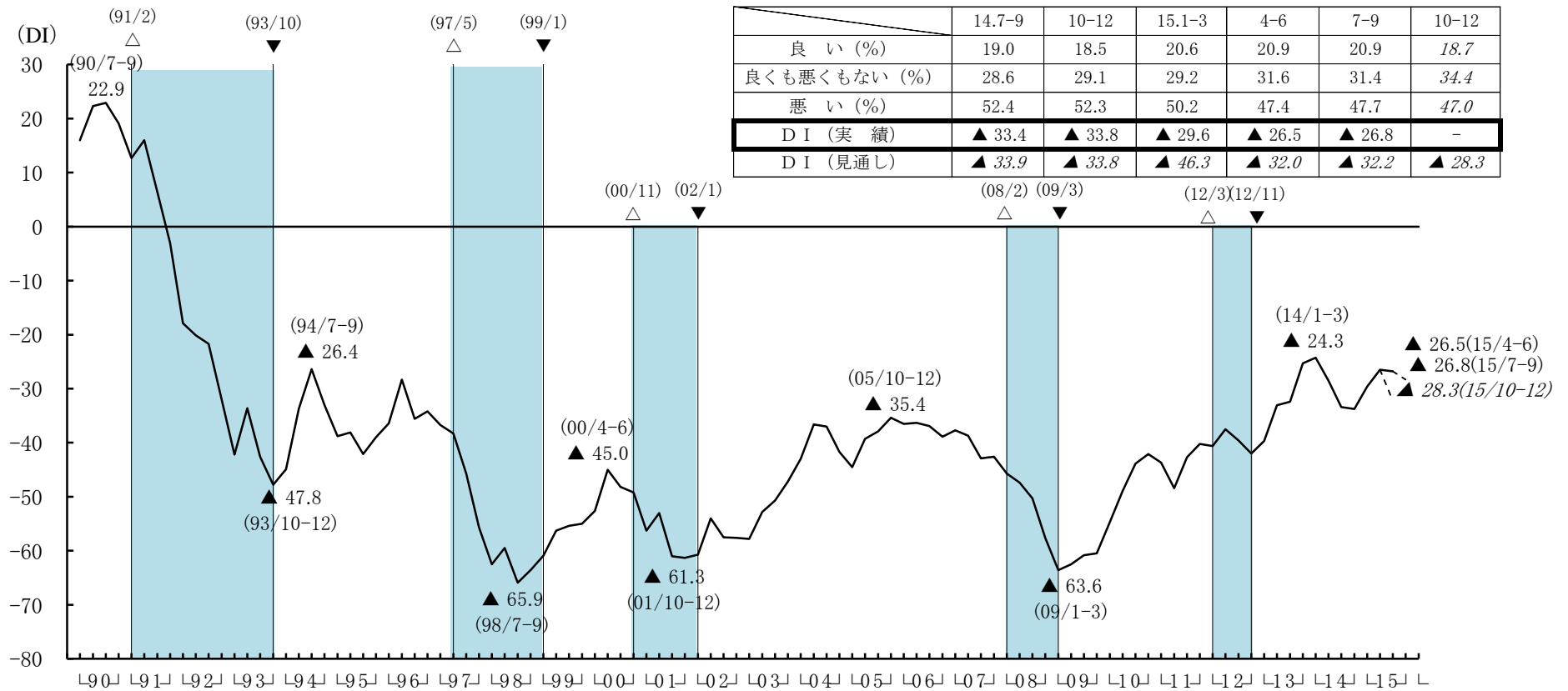
(参 考)

法 人	4,515 企業	(構 成 比 64.3 %)
個 人	2,506 企業	(同 35.7 %)

1 業況判断

- 今期の業況判断DI（全業種計）は、前回調査（2015年4-6月期）からほぼ横ばいの▲26.8となった。来期は、マイナス幅が1.5ポイント拡大し、▲28.3となる見通しである。
- 業種別にみると、製造業はマイナス幅が縮小し、▲25.0となった。一方、非製造業はマイナス幅が拡大し、▲27.2となった。非製造業を構成する大分類業種のうち、小売業とサービス業でマイナス幅が拡大した。来期は、製造業、非製造業ともに、マイナス幅が拡大する見通しとなっている。
- 地域別にみると、北海道と北陸でマイナス幅が縮小した。来期は、東京・南関東、四国、九州を除く全ての地域で、マイナス幅が拡大する見通しとなっている。

図－1 業況判断DIの推移（全業種計）

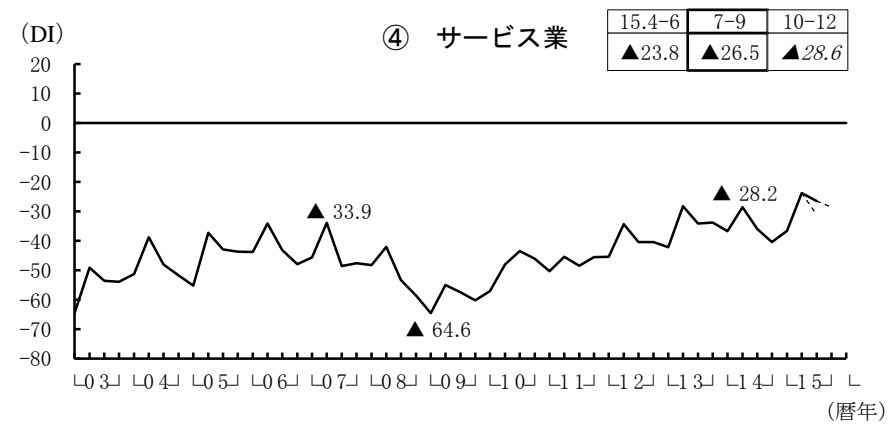
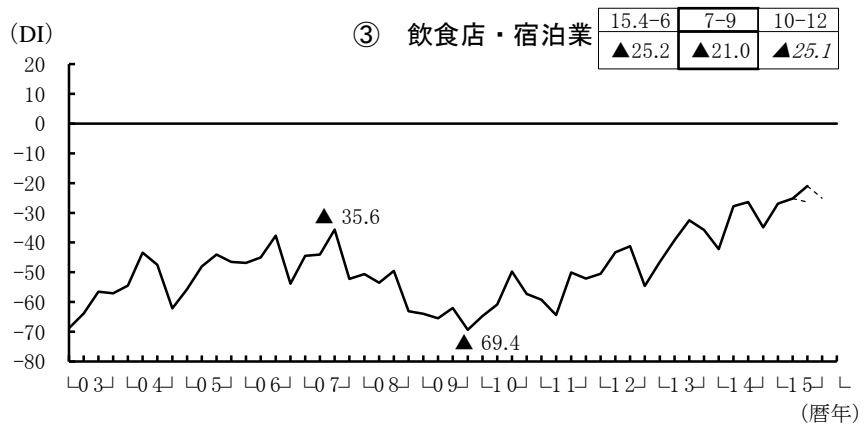
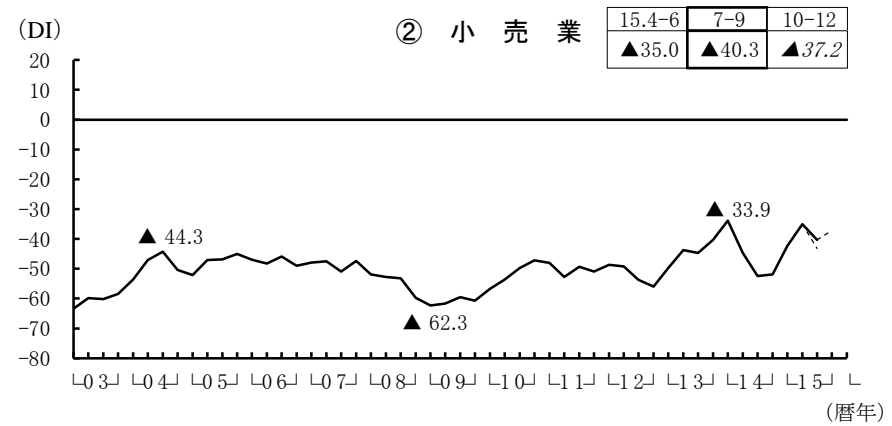
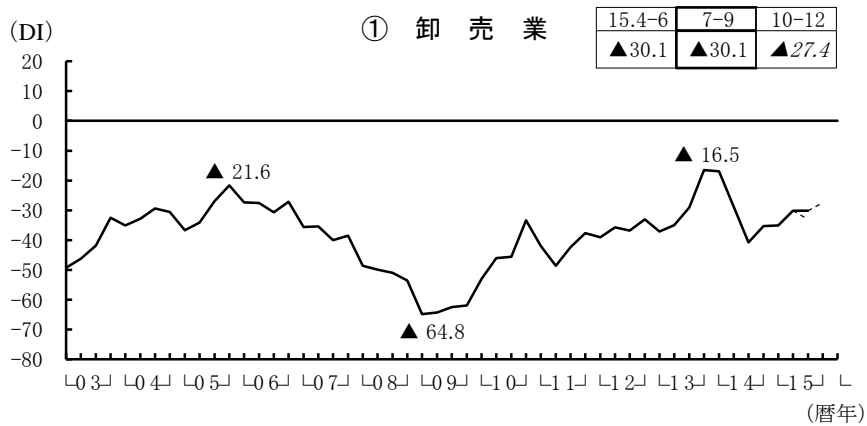
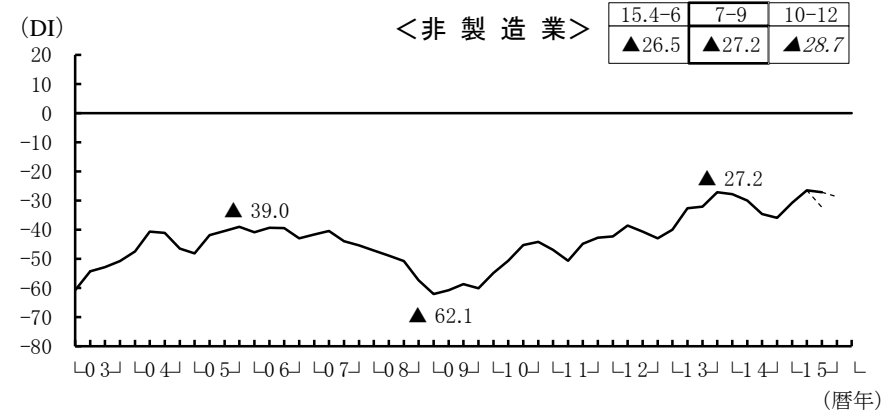
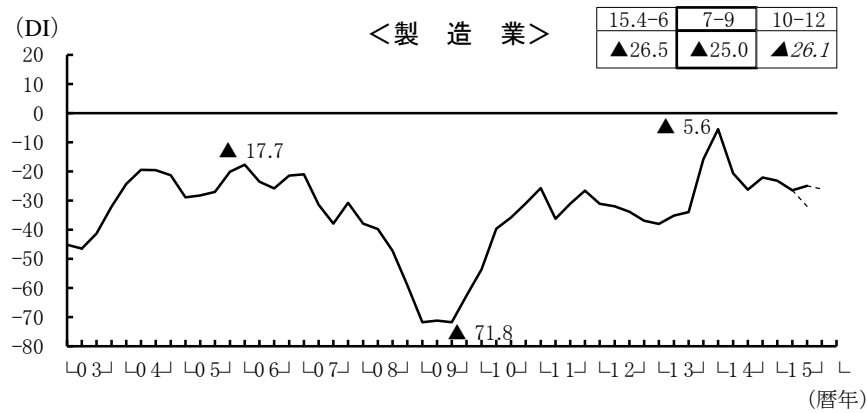


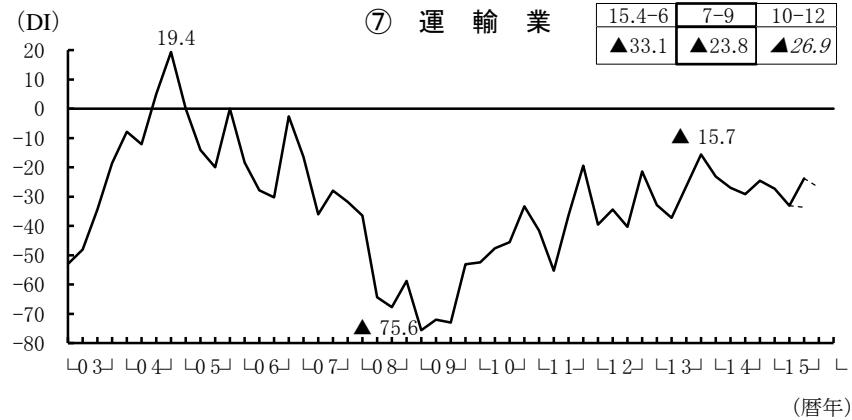
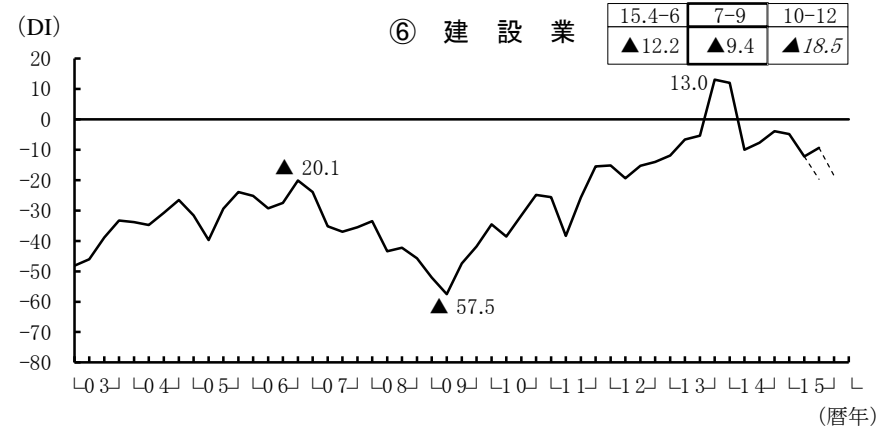
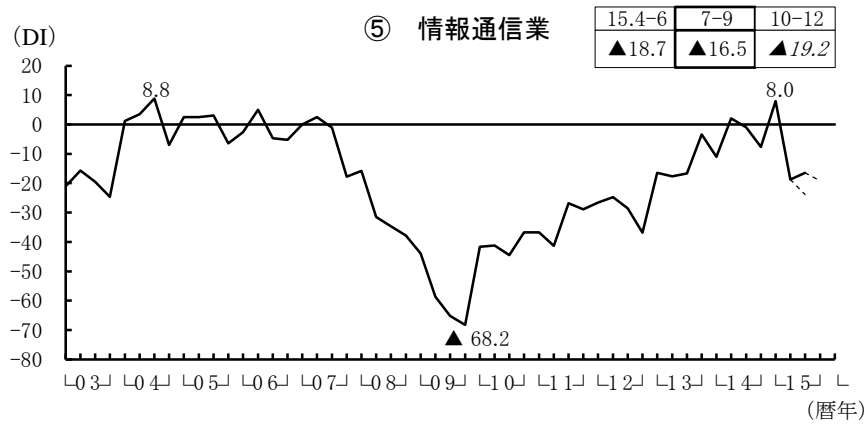
(注) 1 DIは、調査対象企業の業況が「良い」と回答した企業割合から「悪い」と回答した企業割合を差し引いた値。

2 ——— は実績、----- は見通し。斜体は見通しの値を示している。

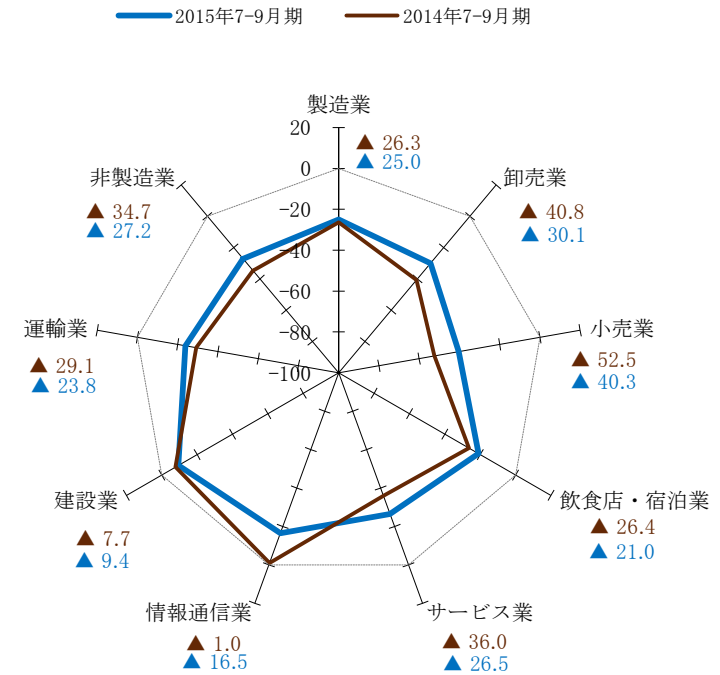
(暦年)

図－２ 業種別業況判断DIの推移

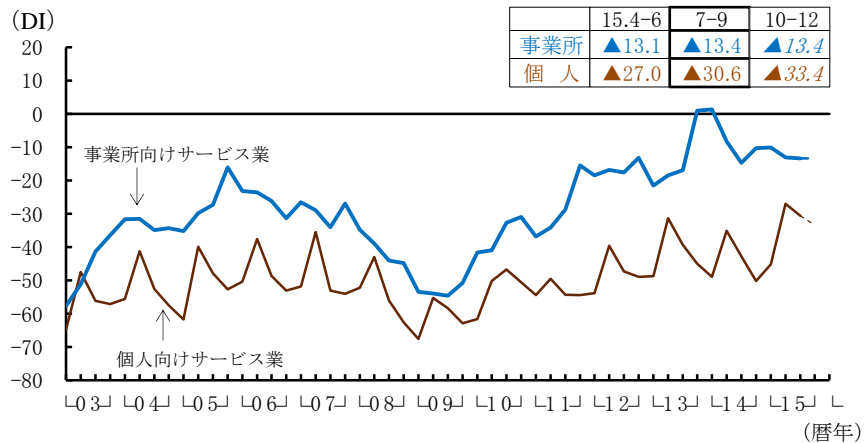




(参考2) 1年前 (2014年7-9月期) の水準との比較

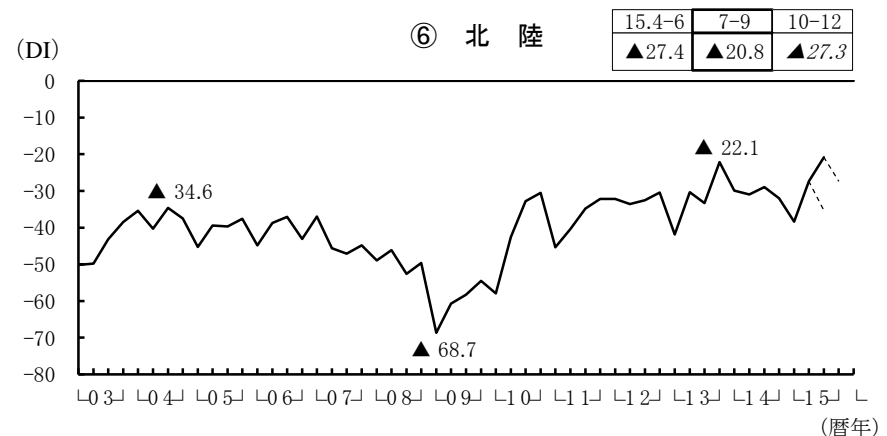
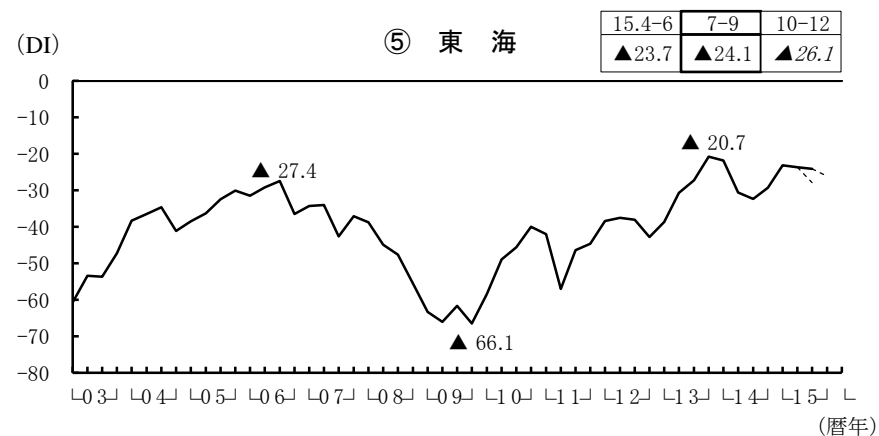
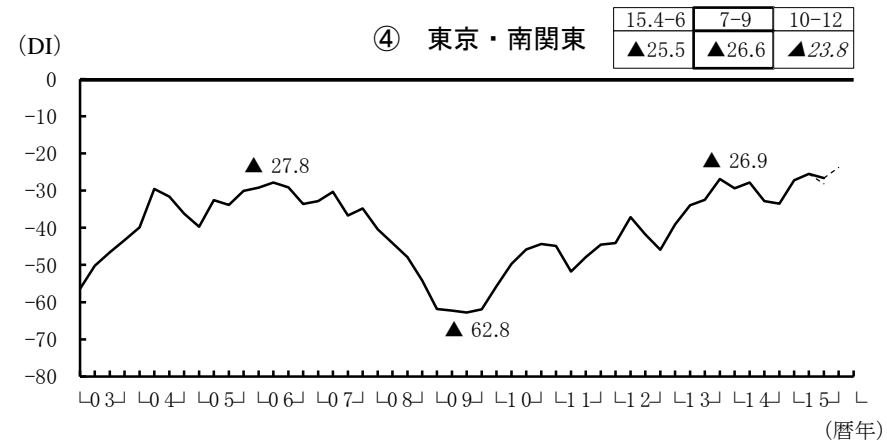
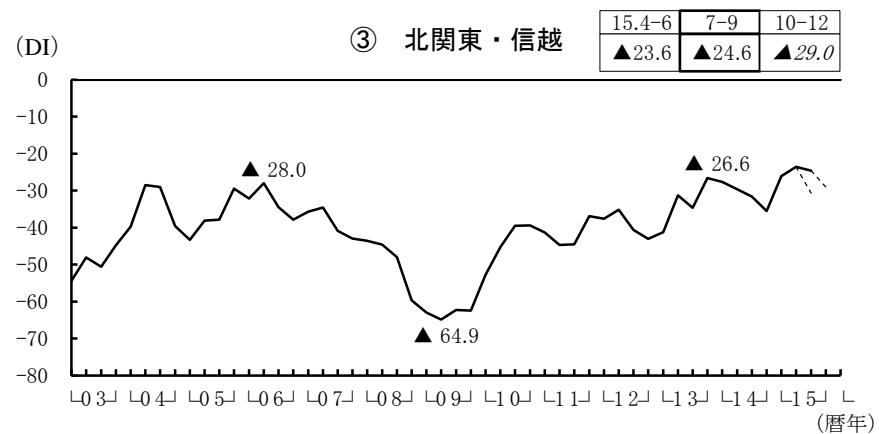
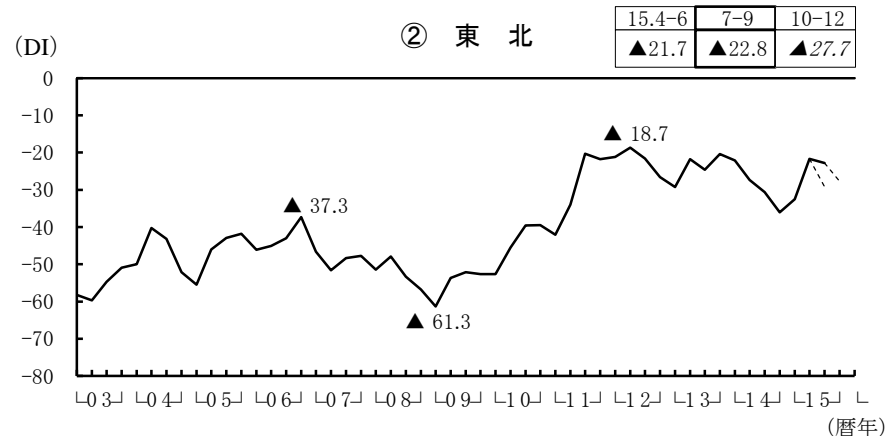
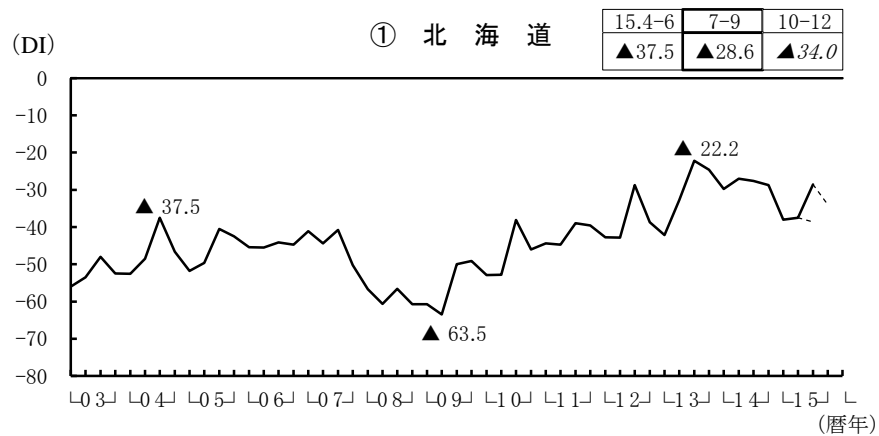


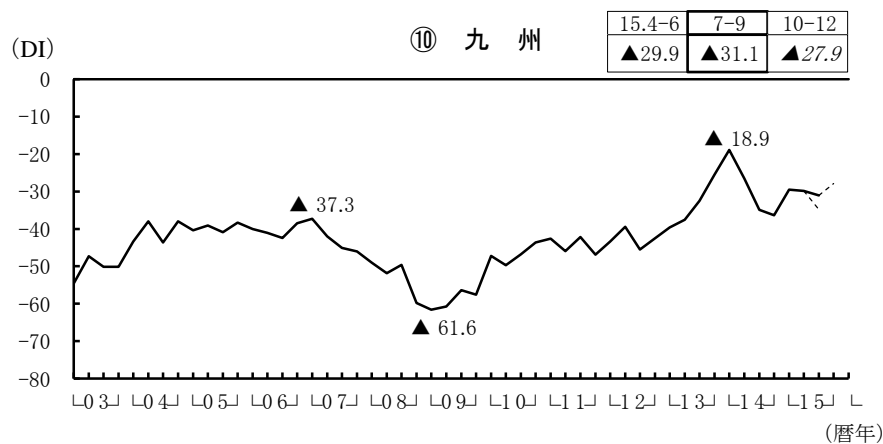
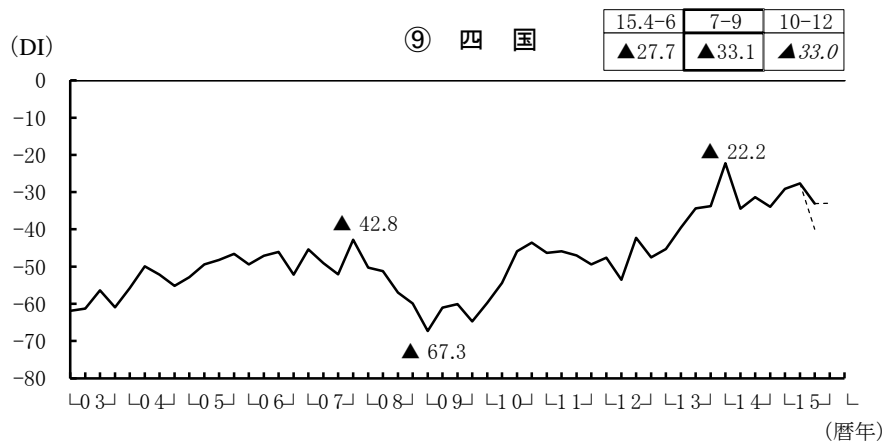
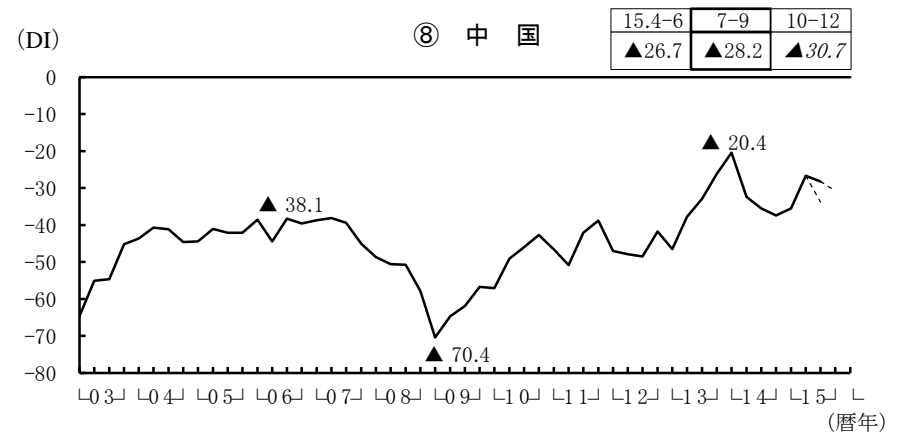
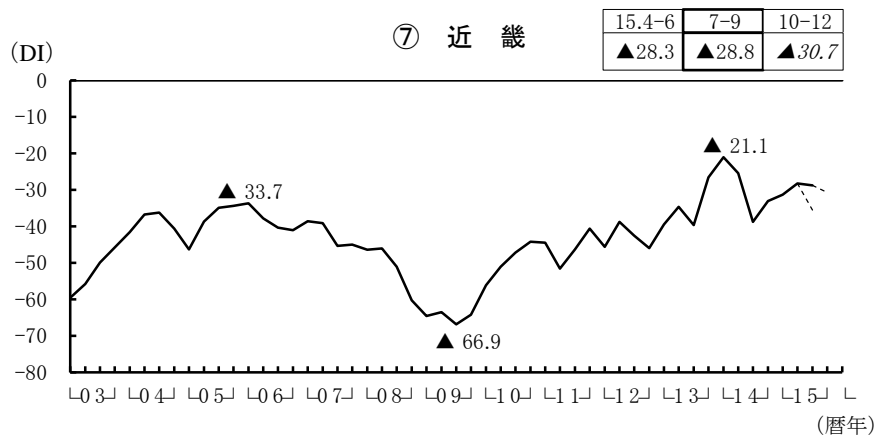
(参考1) 個人向けサービス業と事業所向けサービス業の業況判断DIの推移



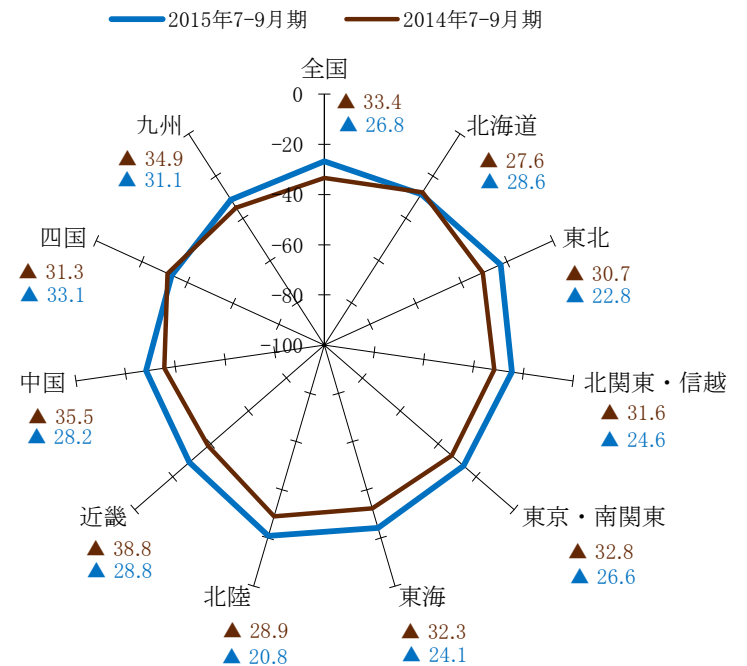
(注) 各業種の値は、上段が1年前、下段が今期を示している。

図-3 地域別業況判断DIの推移





(参考) 1年前 (2014年7-9月期) の水準との比較

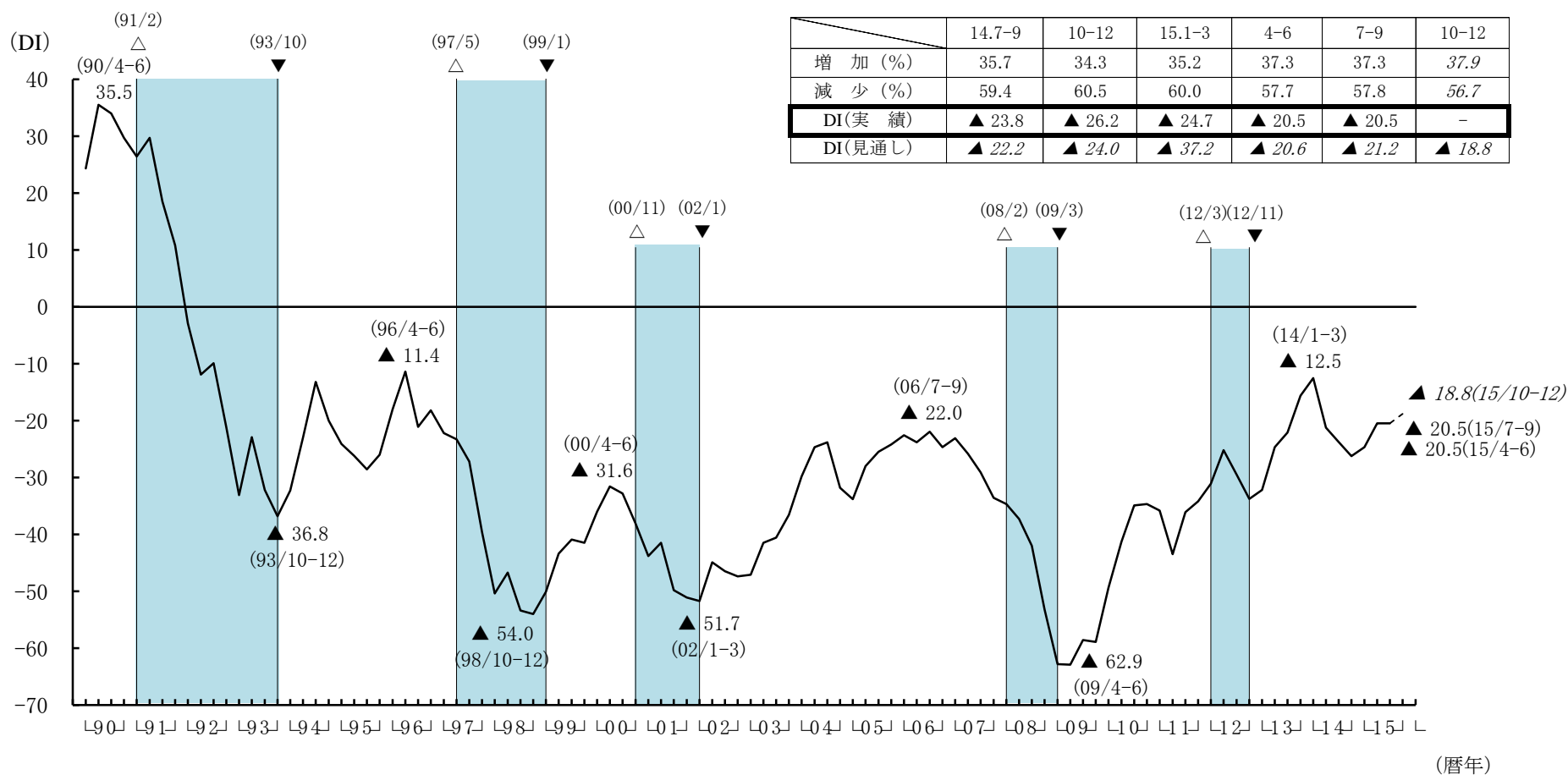


(注) 各地域の値は、上段が1年前、下段が今期を示している。

2 売上

- 売上DI(全業種計)は、前回調査から横ばいの▲20.5となった。
- 来期は、マイナス幅が1.7ポイント縮小する見通しとなっている。

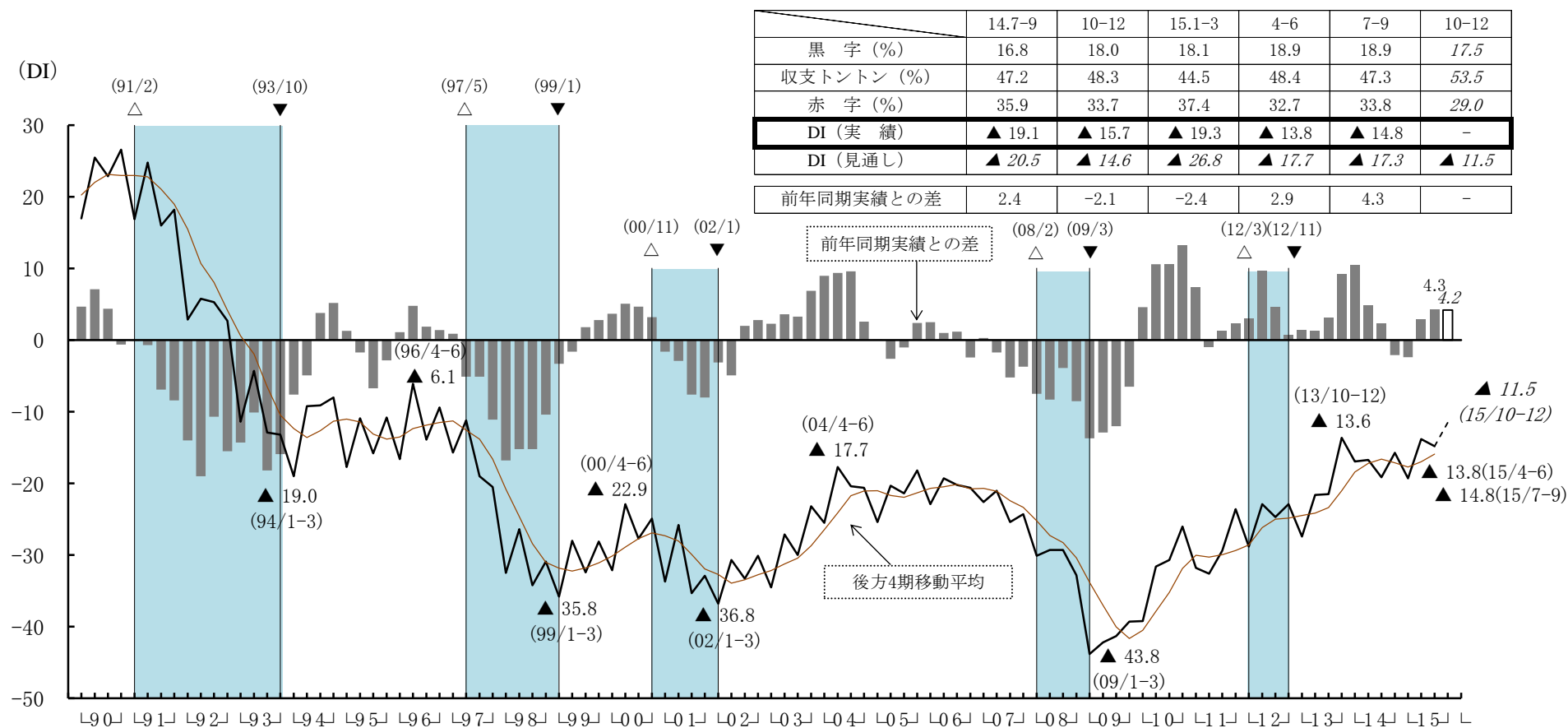
図－4 売上DIの推移（全業種計）



3 採算

- 採算DI(全業種計)は、前回調査に比べてマイナス幅が1.0ポイント拡大し、▲14.8となった。前年同期実績と比べると、2期連続で上回っている。
- 来期は、マイナス幅が3.3ポイント縮小する見通しとなっている。

図－5 採算DIの推移（全業種計）



(注) 1 DIは、「黒字」と回答した企業割合から「赤字」と回答した企業割合を差し引いた値。

2 ——— は実績、----- は見通し。斜体は見通しの値を示している。

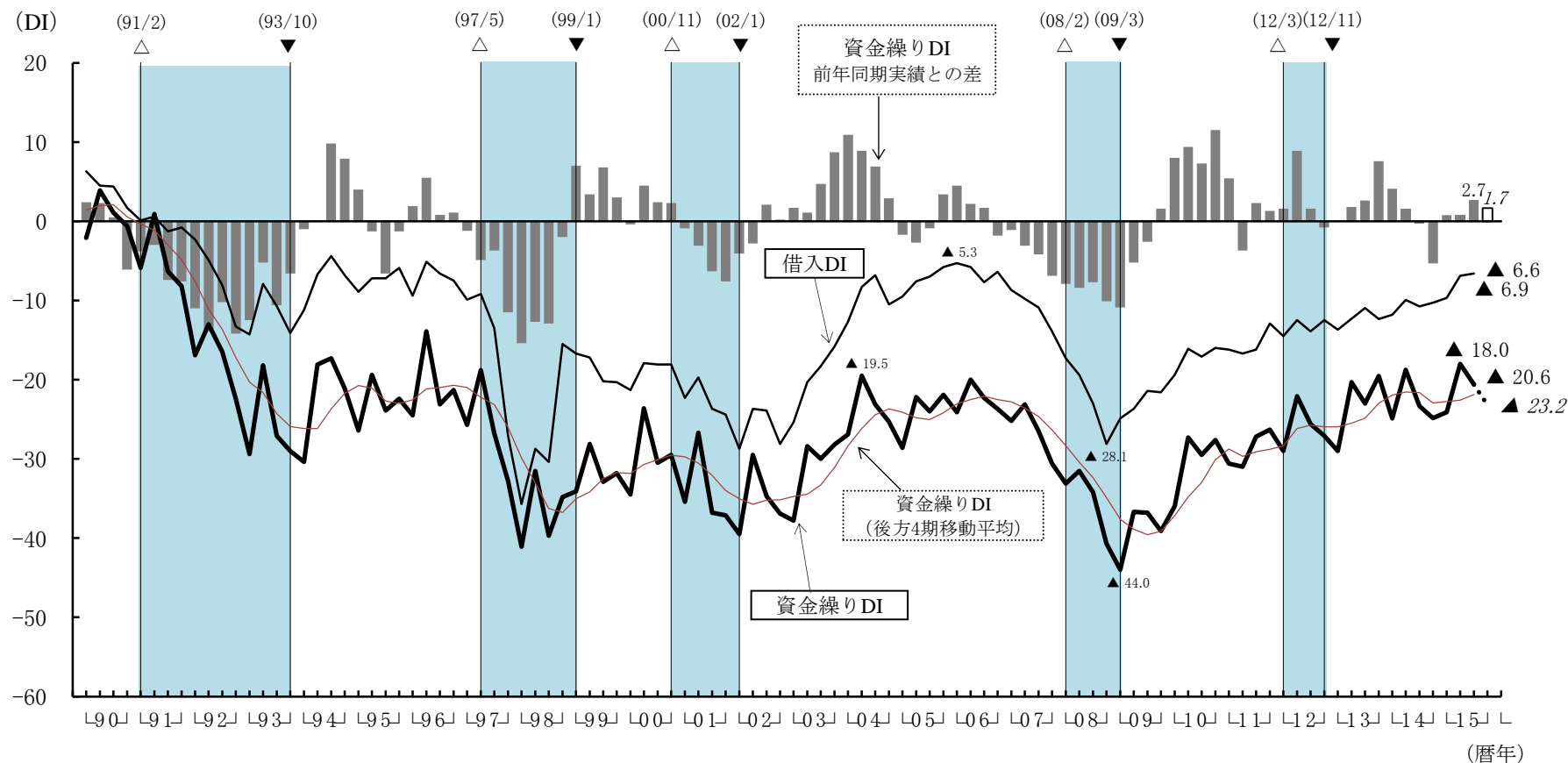
3 白抜き部分は見通しと前年同期実績との差。

(暦年)

4 資金繰り、借入

- 今期の資金繰りDI（全業種計）は、マイナス幅が2.6ポイント拡大し、▲20.6となった。来期は、マイナス幅が2.6ポイント拡大する見通しとなっている。
- 民間金融機関からの借入状況（全業種計）をみると、今期の借入DIは、マイナス幅が0.3ポイント縮小し、▲6.6となった。

図－6 資金繰りDI、借入DIの推移（全業種計）

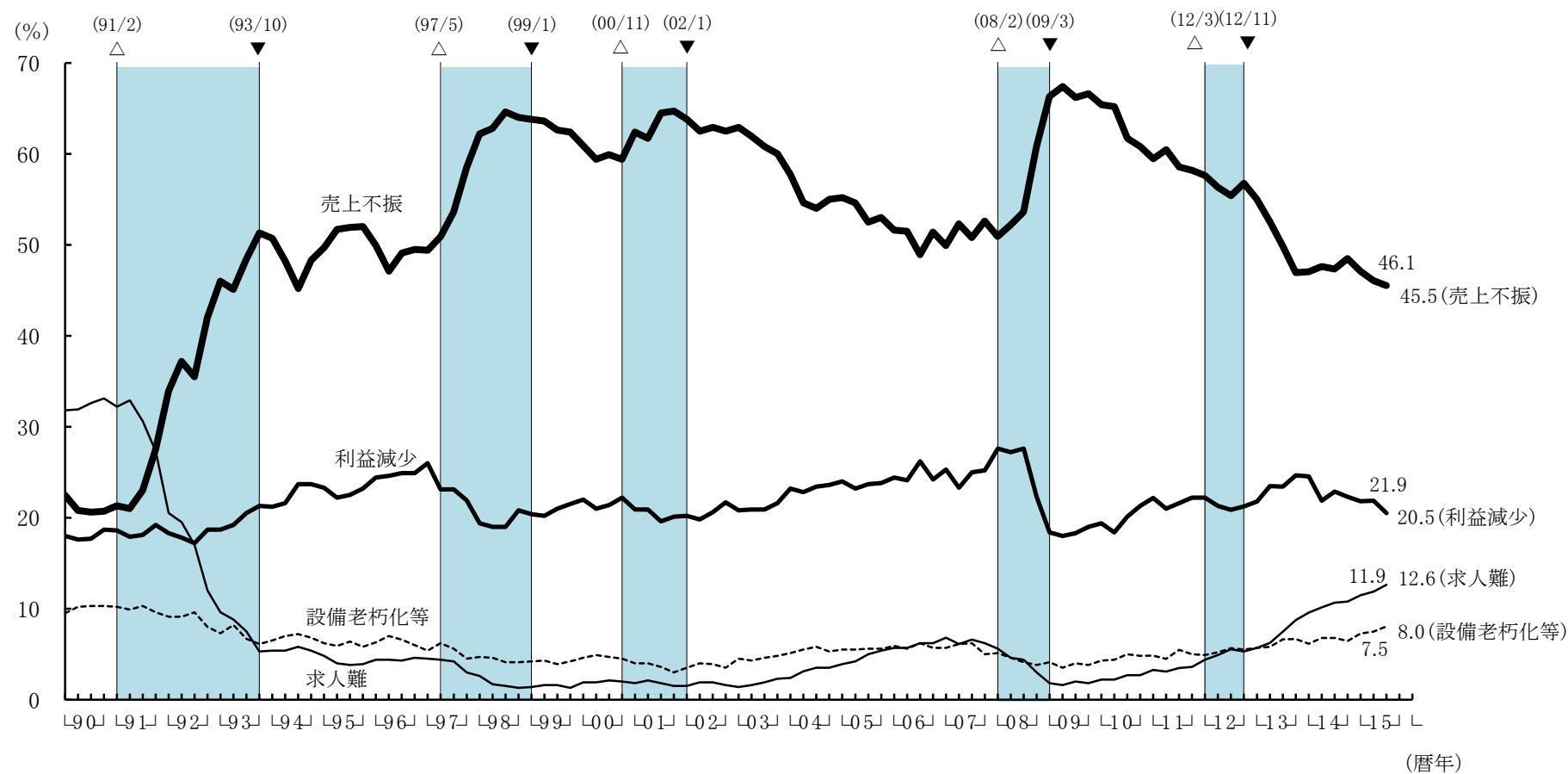


- (注) 1 資金繰りDIは、前期比で「好転」と回答した企業割合から「悪化」と回答した企業割合を差し引いた値。
 2 借入DIは、前期比で「容易になった」と回答した企業割合から「難しくなった」と回答した企業割合を差し引いた値。
 3 ——— は実績、----- は見通し。斜体は見通しの値を示している。
 4 白抜き部分は見通しと前年同期実績との差。

5 経営上の問題点

○ 当面の経営上の問題点（全業種計）をみると、「売上不振」が45.5%と依然として最も多く、次いで、「利益減少」（20.5%）、「求人難」（12.6%）の順となっている。「求人難」は、11期連続で上昇している。

図－7 経営上の問題点の推移（全業種計、上位4項目）



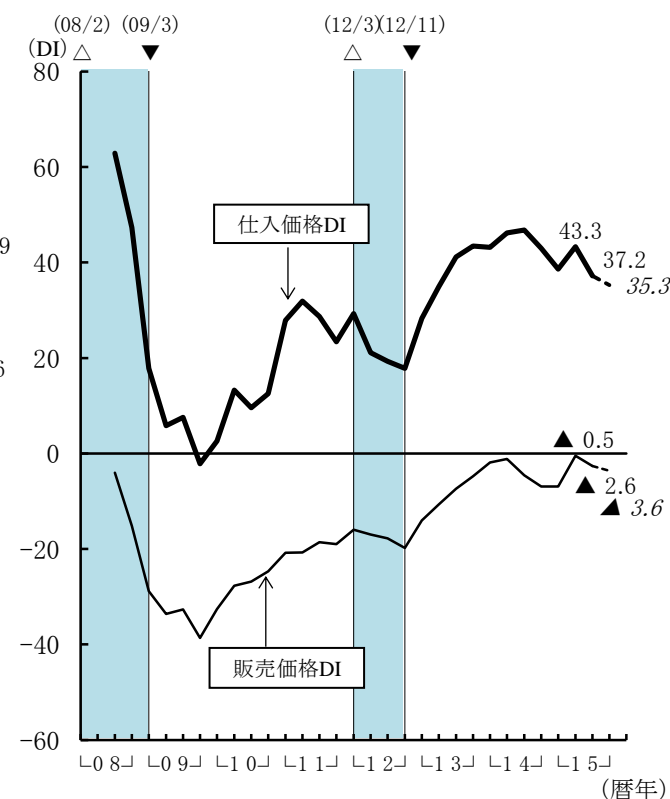
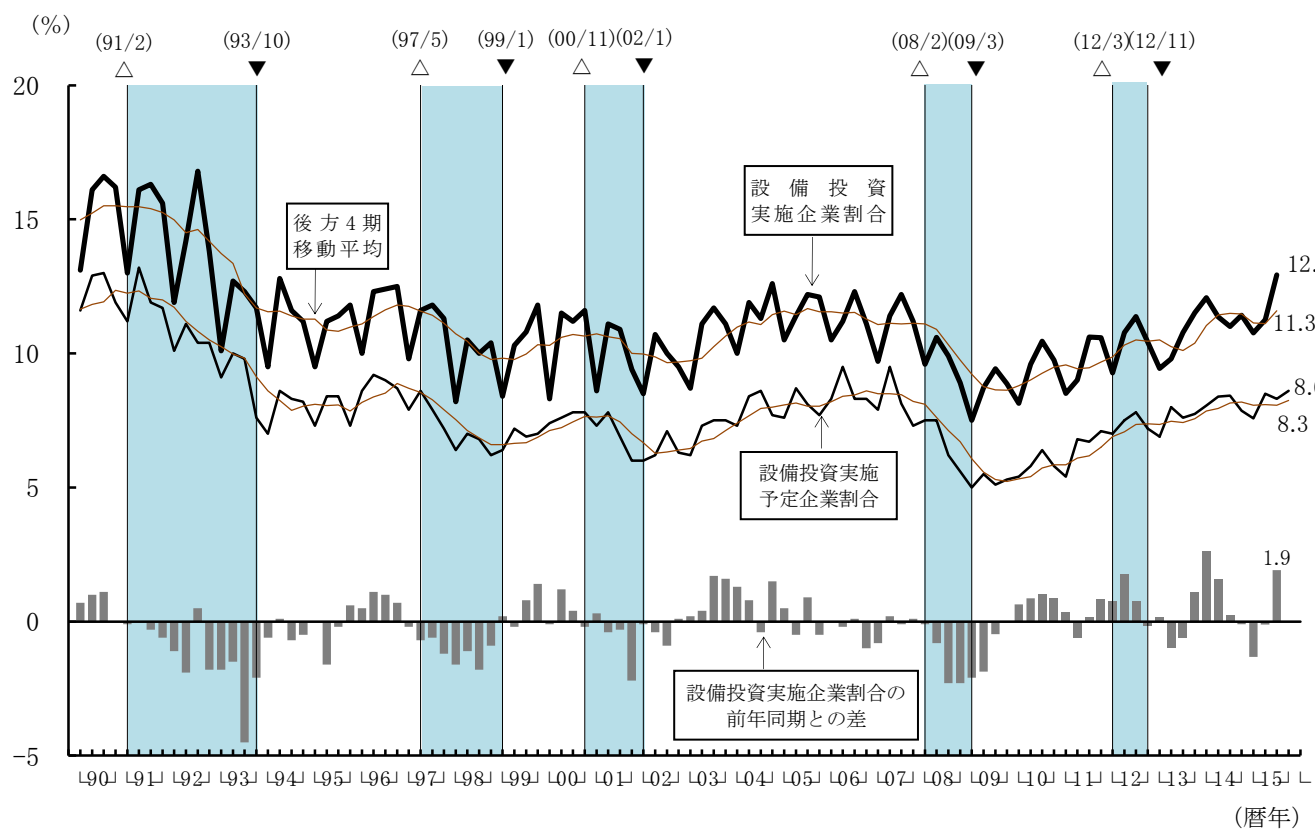
(注) 経営上の問題点（上位4項目）とは、当面の経営上の問題点について択一式で回答を求め、上位4位までを示したものの。

6 設備投資、価格動向

- 今期の設備投資実施企業割合（全業種計）は、1.6ポイント上昇し、12.9%となった。
- 今期の販売価格DI（全業種計）は、マイナス幅が2.1ポイント拡大し、▲2.6となった。来期は、マイナス幅が1.1ポイント拡大する見通しとなっている。
- 今期の仕入価格DI（全業種計）は、6.1ポイント低下し、37.2となった。来期は、1.9ポイント低下する見通しとなっている。

図－8 設備投資実施企業、実施予定企業割合の推移（全業種計）

図－9 販売価格DI、仕入価格DIの推移（全業種計）



- (注) 1 DIは、前年同期比で「上昇」と回答した企業割合から「低下」と回答した企業割合を差し引いた値。
 2 ——— は実績、----- は見通し。斜体は見通しの値を示している。
 3 2008年7-9月期から調査を実施。

中 小 企 業 編

(2015年7－9月期実績、10－12月期および2016年1－3月期見通し)

中小企業の景況は、緩やかに回復している

[概況]

- ・業況判断DIは、前期（2015年4－6月期）から上昇し4.7となった。上昇は2期連続である。来期（2015年10－12月期）は低下して4.2になり、来々期（2016年1－3月期）は7.1に上昇する見通しである。
- ・売上DIは、2期連続で上昇し、7.8となった。来期は上昇して10.2になり、来々期は13.1になる見通しである。
- ・純益率DIは、2期連続で上昇し、▲1.0となった。来期は▲2.0に低下し、来々期は▲0.4に上昇する見通しである。
- ・販売価格DIは、5期連続で低下し、4.2となった。来期以降も低下する見通しである。
- ・仕入価格DIは、5期連続で低下し、34.9となった。来期以降も低下する見通しである。
- ・資金繰りDI、長期借入難易DI、短期借入難易DIは、いずれも前期から上昇した。

[調査の実施要領]

調 査 時 点	2015年9月中旬
調 査 対 象	当公庫取引先（原則従業員20人以上） 13,337社
有 効 回 答 数	6,563 社 [回答率 49.2 %]

<業 種 構 成>

	調 査 対 象	有 効 回 答 数		
製 造 業	5,434 社	2,790 社	(構成比	42.5 %)
鉱 業	25 社	13 社	(同	0.2 %)
建 設 業	1,077 社	587 社	(同	8.9 %)
運送業(除水運)	705 社	363 社	(同	5.5 %)
水 運 業	150 社	78 社	(同	1.2 %)
倉 庫 業	85 社	47 社	(同	0.7 %)
情 報 通 信 業	268 社	119 社	(同	1.8 %)
ガ ス 供 給 業	19 社	10 社	(同	0.2 %)
不 動 産 業	931 社	404 社	(同	6.2 %)
宿泊・飲食サービス業	516 社	215 社	(同	3.3 %)
卸 売 業	1,881 社	939 社	(同	14.3 %)
小 売 業	1,019 社	439 社	(同	6.7 %)
サ ー ビ ス 業	1,227 社	559 社	(同	8.5 %)

(参 考)

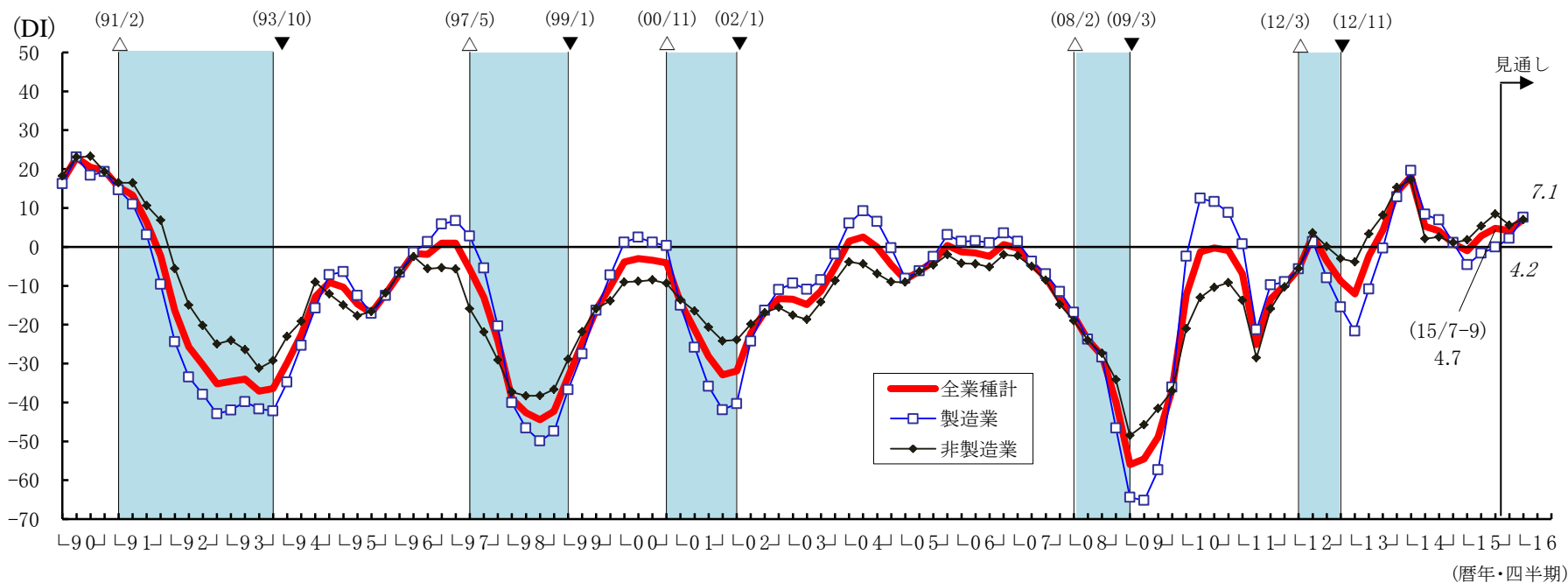
資本金	100 万 円 未 満	66 社	(構成比	1.0 %)
同	100 万 ~ 300 万 円 未 満	89 社	(同	1.4 %)
同	300 万 ~ 1,000 万 円 未 満	559 社	(同	8.5 %)
同	1,000 万 ~ 5,000 万 円 未 満	4,295 社	(同	65.4 %)
同	5,000 万 円 ~ 1 億 円 未 満	1,210 社	(同	18.4 %)
同	1 億 ~ 3 億 円 未 満	269 社	(同	4.1 %)
同	3 億 円 以 上	75 社	(同	1.1 %)

1 業況判断

- 今期（2015年7－9月期）の業況判断DIは、前期（2015年4－6月期）から1.9ポイント上昇し、4.7となった。上昇は2期連続である。
- 来期（2015年10－12月期）は、低下して4.2になり、来々期（2016年1－3月期）は7.1に上昇する見通しである。

図－1 業況判断DIの推移（季節調整値）

	2014/7-9	2014/10-12	2015/1-3	2015/4-6	2015/7-9 (前回見通し)	2015/10-12 (前回見通し)	2016/1-3
業況判断DI (季節調整値)	4.1	0.8	▲ 1.0	2.8	4.7 (4.5)	4.2 (6.1)	7.1
製 造 業	6.9	1.1	▲ 4.6	▲ 1.6	▲ 0.1 (2.3)	2.2 (4.7)	7.6
非 製 造 業	2.6	1.1	1.8	5.4	8.5 (6.5)	5.6 (7.3)	7.0



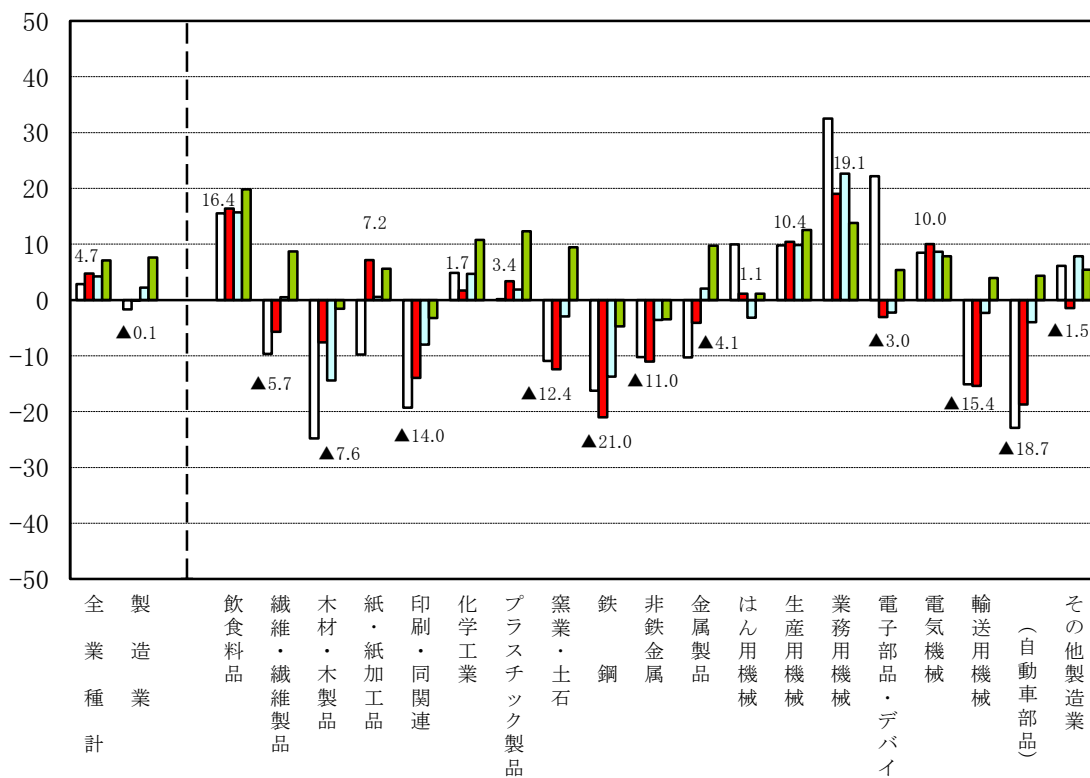
(注) 1 業況判断DIは、調査対象企業の業況が前年同期比で「好転」と回答した企業割合から「悪化」と回答した企業割合を差し引いた値（季節調整値）。
 2 図中の数字は全業種計の値。斜体は見通しの値を示す。

- 今期の業況判断DIを業種別にみると、製造業は、飲食料品、生産用機械、業務用機械、電気機械などでプラス水準となった。一方、鉄鋼、窯業・土石、非鉄金属など素材関連の業種や、輸送用機械でマイナス幅が拡大した。来期以降をみると、今期マイナス水準となった業種でも、上昇する見通しの業種が多い。
- 非製造業は、運送業、情報通信業、宿泊・飲食サービス業などでプラス幅が拡大したほか、多くの業種でDIはプラス水準となった。来期は、多くの業種でDIは低下するものの、引き続きプラス水準となる見通しである。

図－２ 業種別業況判断DIの推移（季節調整値）

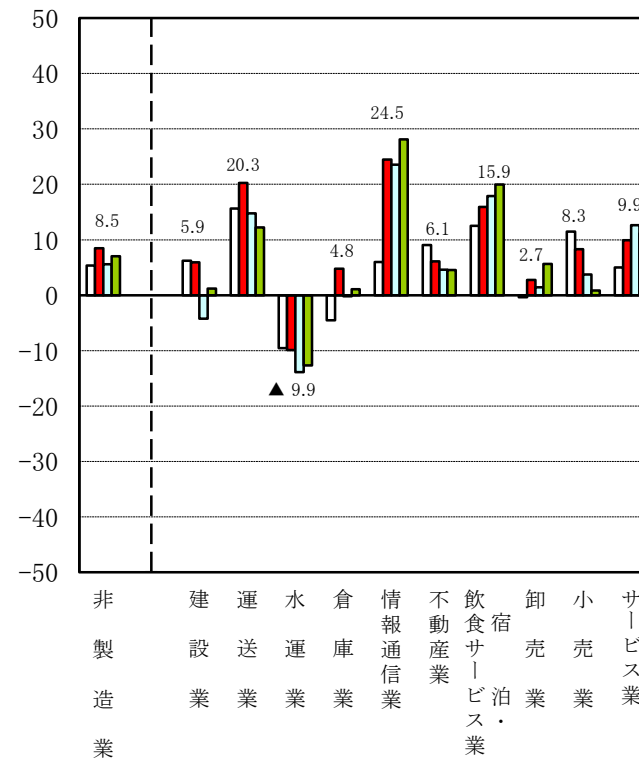


－製造業－
(DI)



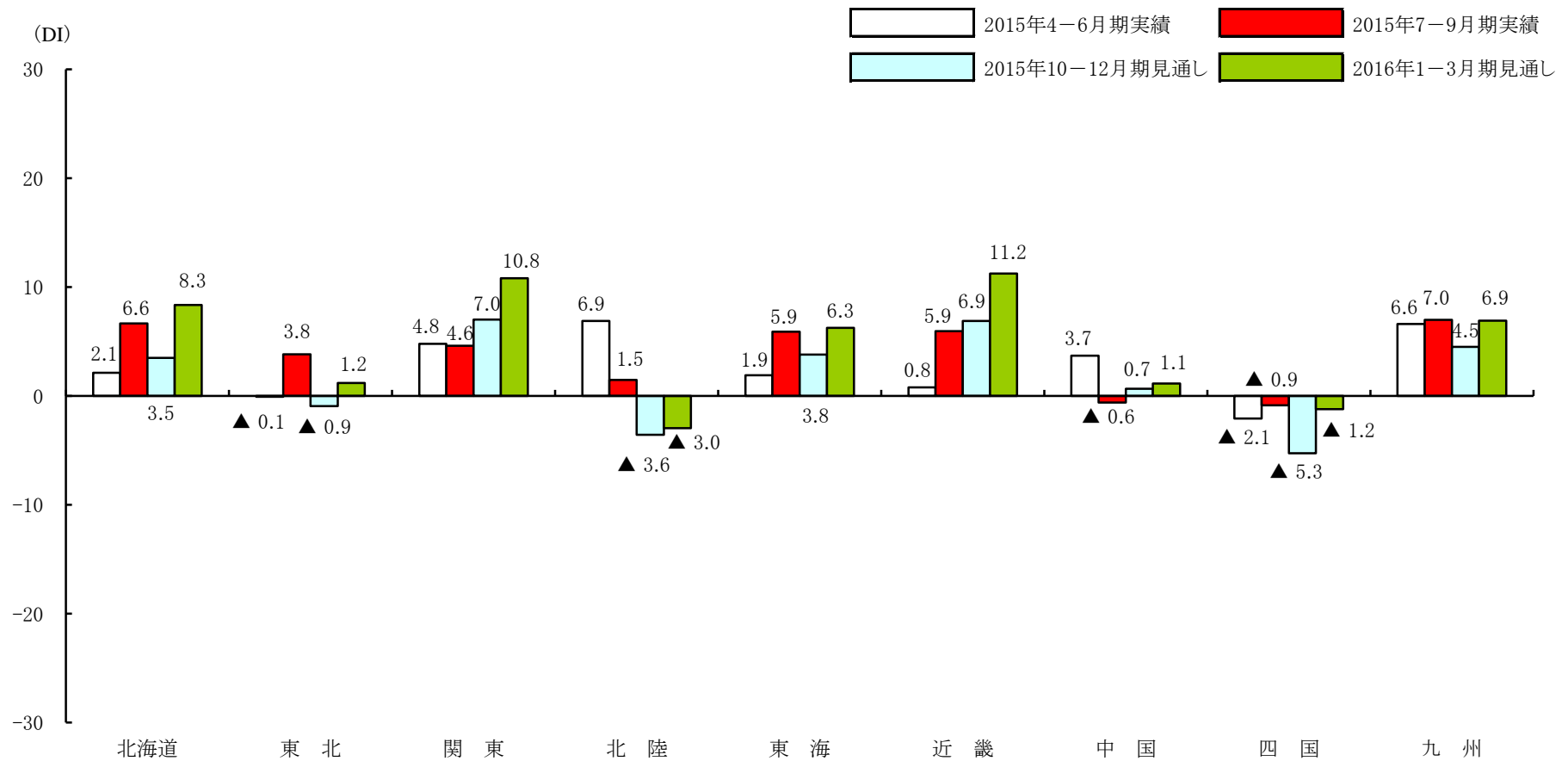
(注) 図中の数字は、今期の実績値を示す。

－非製造業－
(DI)



- 業況判断DIを地域別にみると、北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、九州の7地域でプラス水準となっている。
- 来期は6地域で、来々期は7地域でプラス水準となる見通しである。

図－3 地域別業況判断DI（季節調整値）

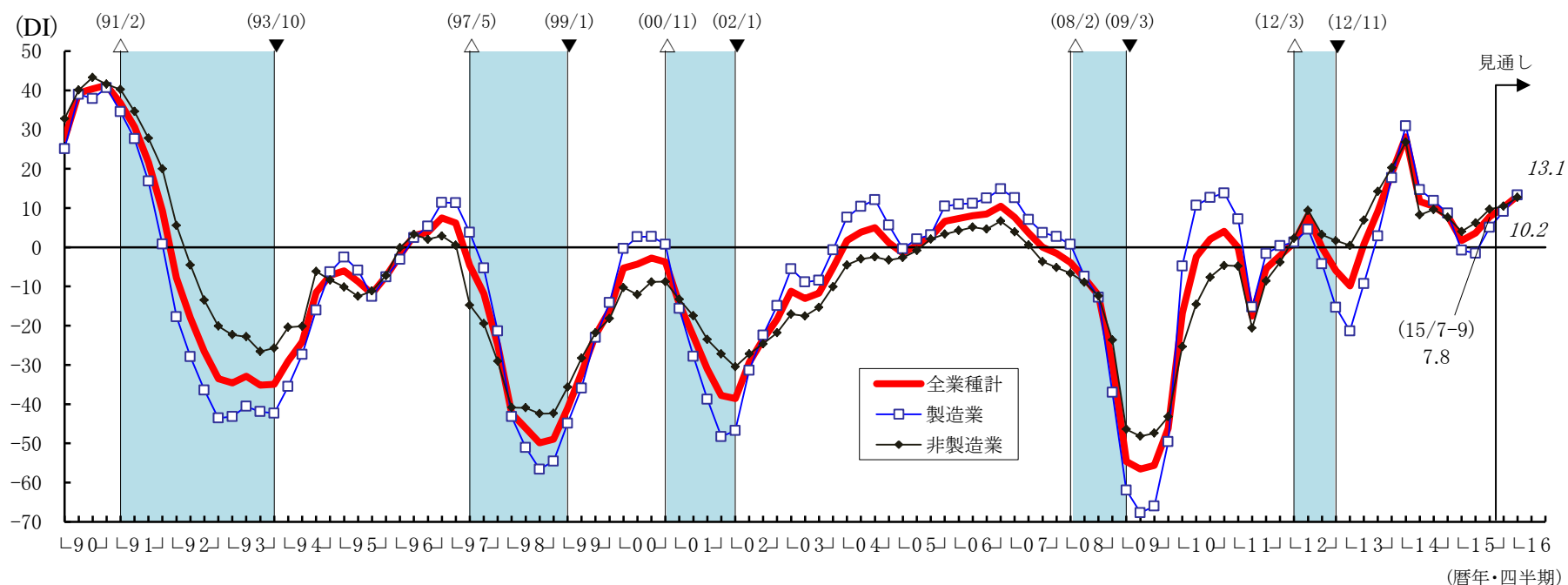


2 売 上

- 今期の売上DIは、前期から4.2ポイント上昇し7.8となった。上昇は2期連続である。
- 来期は上昇して10.2になり、来々期は13.1になる見通しである。

図－4 売上DIの推移（季節調整値）

	2014/7-9	2014/10-12	2015/1-3	2015/4-6	2015/7-9 (前回見通し)	2015/10-12 (前回見通し)	2016/1-3
売上DI (季節調整値)	10.5	7.9	1.7	3.6	7.8 (10.8)	10.2 (11.8)	13.1
製 造 業	11.9	8.7	▲ 0.8	▲ 1.5	5.0 (9.8)	9.1 (10.8)	13.3
非 製 造 業	9.6	7.6	4.0	6.2	9.7 (12.8)	10.5 (13.0)	12.7



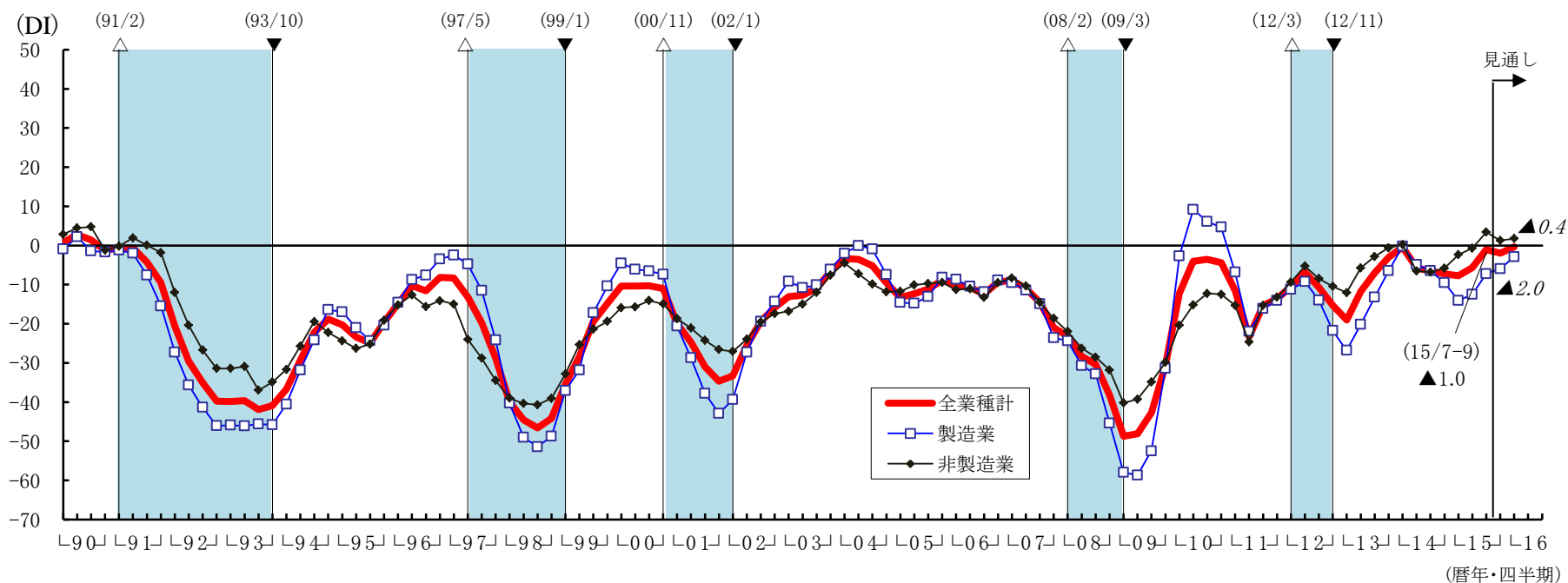
- (注) 1 売上DIは、前年同期比で「増加」企業割合－「減少」企業割合（季節調整値）。
 2 図中の数字は全業種計の値。斜体は見通しの値を示す。

3 利益

- 今期の純益率DIは、前期から4.7ポイント上昇し▲1.0となった。上昇は2期連続である。
- 来期は▲2.0に低下し、来々期は▲0.4に上昇する見通しである。

図－5 純益率DIの推移（季節調整値）

	2014/7-9	2014/10-12	2015/1-3	2015/4-6	2015/7-9 (前回見通し)	2015/10-12 (前回見通し)	2016/1-3
純益率DI (季節調整値)	▲ 6.5	▲ 7.2	▲ 7.7	▲ 5.7	▲ 1.0 (▲ 3.9)	▲ 2.0 (▲ 1.6)	▲ 0.4
製 造 業	▲ 6.4	▲ 9.5	▲ 14.1	▲ 12.5	▲ 7.2 (▲ 7.7)	▲ 5.9 (▲ 4.8)	▲ 2.9
非 製 造 業	▲ 6.8	▲ 5.8	▲ 2.4	▲ 0.7	3.4 (▲ 0.8)	1.3 (0.4)	1.8



(注) 1 純益率DIは、前年同期比で「上昇」企業割合－「低下」企業割合（季節調整値）。

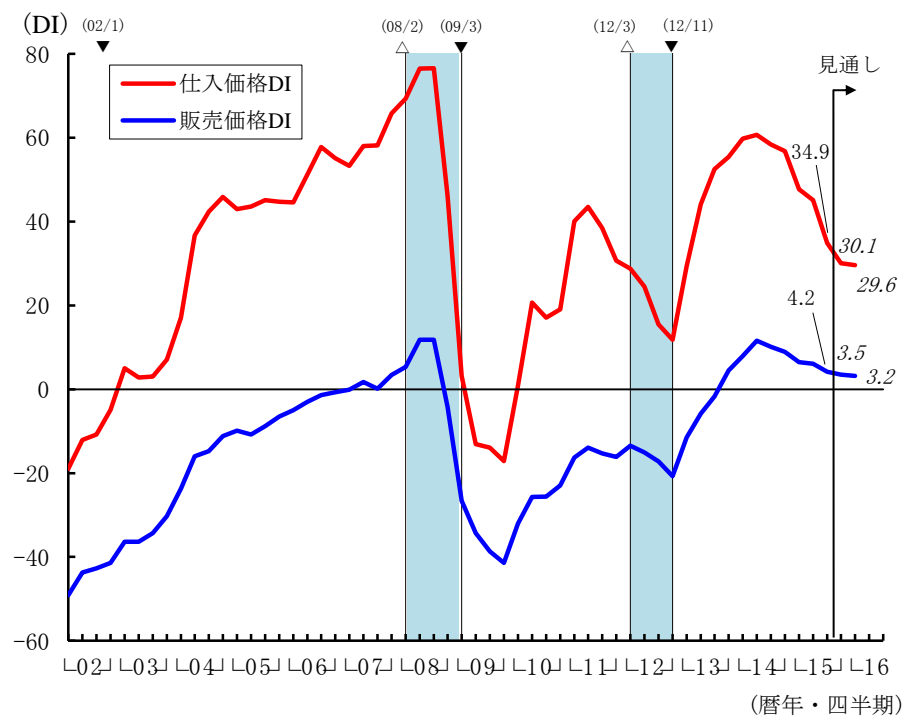
2 図中の数字は全業種計の値。斜体は見通しの値を示す。

4 価格、金融関連

- 今期の販売価格DIは、1.9ポイント低下し4.2となった。仕入価格DIは、10.2ポイント低下し34.9となった。低下はいずれも5期連続である。来期以降は、販売価格DI、仕入価格DIともに低下する見通しとなっている。
- 今期の資金繰りDI、長期借入難易DI、短期借入難易DIは、いずれも前期から上昇した。

図－6 価格関連DIの推移（原数値）

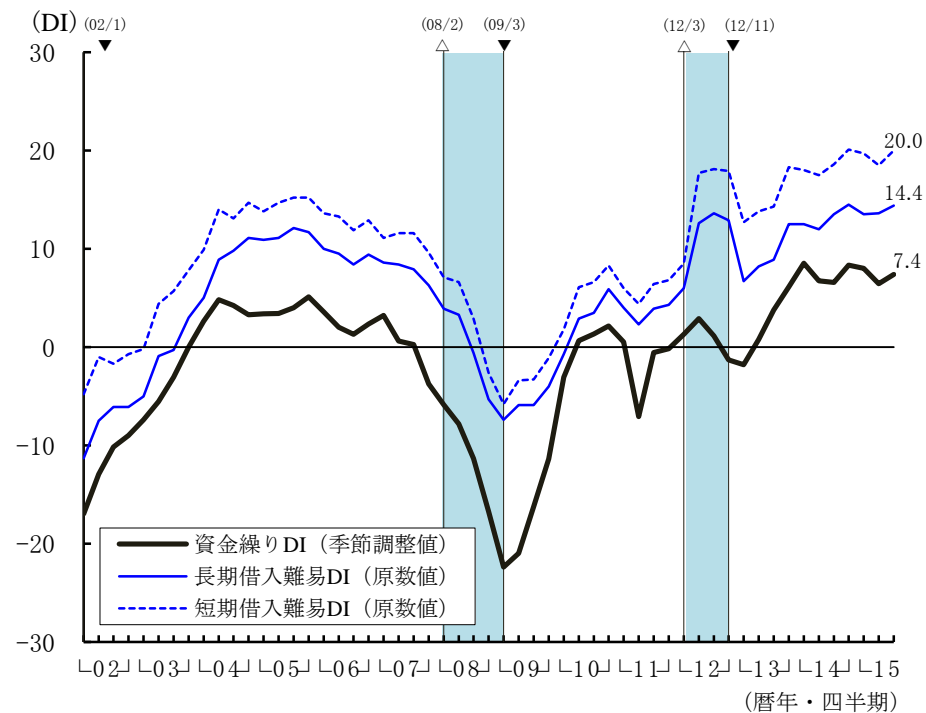
	2014/7-9	2014/10-12	2015/1-3	2015/4-6	2015/7-9	2015/10-12	2016/1-3
販売価格DI	10.1	8.9	6.5	6.1	4.2	3.5	3.2
仕入価格DI	58.4	56.8	47.7	45.1	34.9	30.1	29.6



- (注) 1 仕入価格DI、販売価格DIともに前年同期比で「上昇」企業割合－「低下」企業割合（原数値）。
2 図中の数字は今期実績および見通し（斜体）の値を示す。

図－7 金融関連DIの推移

	2014/7-9	2014/10-12	2015/1-3	2015/4-6	2015/7-9
資金繰りDI（季節調整値）	6.6	8.3	8.0	6.4	7.4
長期借入難易DI（原数値）	13.5	14.5	13.5	13.6	14.4
短期借入難易DI（原数値）	18.6	20.1	19.7	18.5	20.0



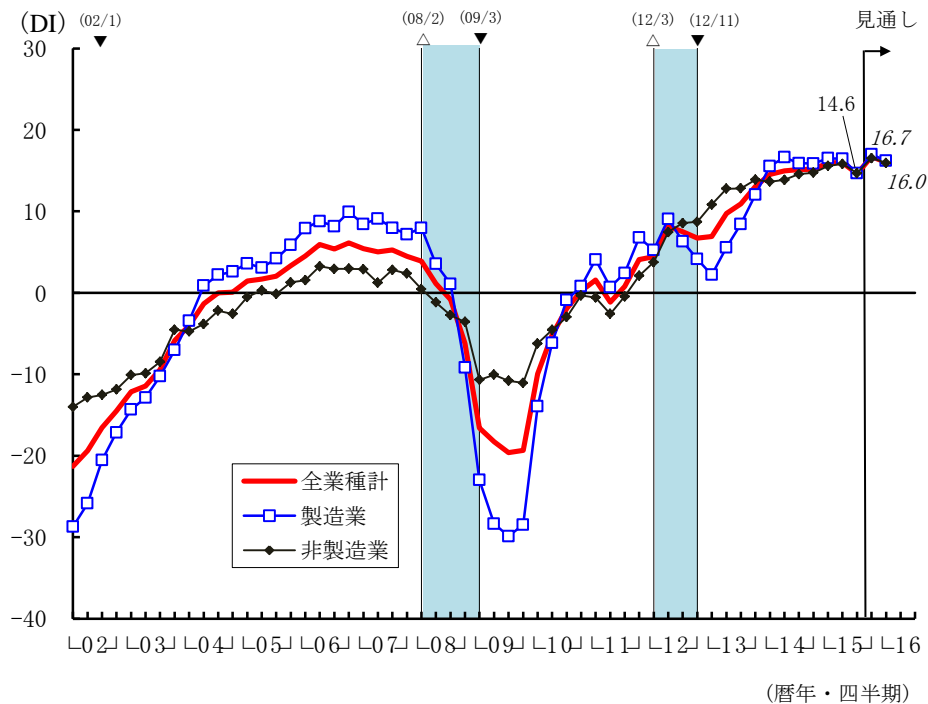
- (注) 1 資金繰りDIは、前年同期比で「好転」企業割合－「悪化」企業割合（季節調整値）。
2 借入難易DIは、前年同期比で「容易」企業割合－「困難」企業割合（原数値）。
3 図中の数字は今期の実績値を示す。

5 雇用、設備

- 今期の従業員DIは前期から低下し14.6となった。来期は上昇する見通しである。
- 今期の設備投資実施企業割合は、37.9%となった。

図－8 従業員DIの推移（季節調整値）

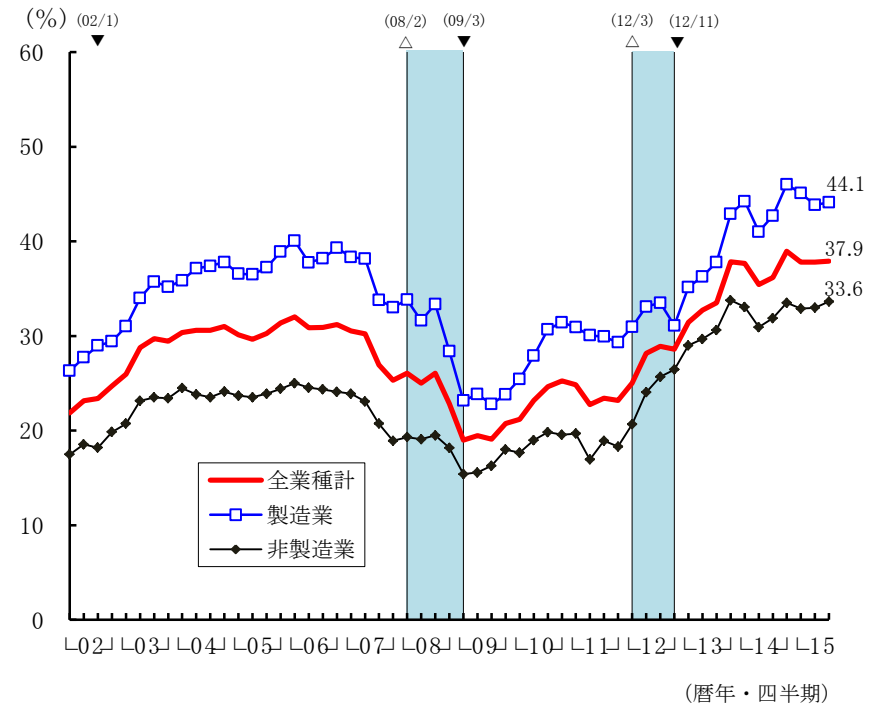
	2014/7-9	2014/10-12	2015/1-3	2015/4-6	2015/7-9	2015/10-12	2016/1-3
全業種計	15.1	15.2	15.9	16.0	14.6	16.7	16.0
製造業	15.9	15.9	16.5	16.4	14.7	17.0	16.2
非製造業	14.6	14.7	15.6	15.8	14.7	16.5	15.9



(注) 1 従業員DIは、前年同期比で「増加」企業割合－「減少」企業割合（季節調整値）。
2 図中の数字は全業種計の値。斜体は見通しの値を示す。

図－9 設備投資実施企業割合の推移（季節調整値）

	2014/7-9	2014/10-12	2015/1-3	2015/4-6	2015/7-9
全業種計	36.2	39.0	37.8	37.8	37.9
製造業	42.7	46.0	45.1	43.9	44.1
非製造業	31.9	33.5	32.9	33.0	33.6



(注) 図中の数字は今期の実績値を示す。

6 経営上の問題点

- 当面の経営上の問題点をみると、「売上・受注の停滞、減少」が39.8%と最も多く、次いで、「求人難」(22.3%)、「原材料高」(9.3%)となっている。
- 前回調査と比べると、「売上・受注の停滞、減少」は1.9ポイント、「求人難」は2.6ポイント上昇した一方、「原材料高」は4.3ポイント低下した。

図-10 経営上の問題点の推移

